

【能勢町教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

1人1台端末の効果的な活用やめざす学びの姿については以下の通りに整理する。

- ・可視化による効率的な情報の共有

授業支援ツール等を活用することで、より効率的に子ども同士の意見を交流したり、発言がしにくい子どもの意見まで見える形で共有したりすることが可能である。そういった積極的に意見を交流する授業の中で、自分自身の意見を自分の言葉で表現できる子どもの姿を期待している。

また、子ども同士のコミュニケーションを活発にするきっかけとしてICTを活用し、子ども主体の授業の実践する。児童生徒が、自身の学習ログ等をうまく活用し、効果的に学習が進められる姿をめざしていく。

- ・情報リテラシーの向上

インターネットでは、従来と比べ、情報を効率的かつ幅広く集められる環境にある。一方で、その情報の真偽やフェイクニュース、偏向表現により正しくない情報を得たり、考えを誘導されたりする可能性を孕んでいるため、情報を自身で判断し、取捨選択できるリテラシー能力を高める必要がある。様々なアプリケーション等を利用することにより、探究的な学びを深めていくことにつながる。

効果的な学びにつなげるためには、授業者が効果的な使い方を伝えたり、活用場面を精査したりする必要があり、授業者として活用方法や取組事例に触れていくことが求められる。さらに、今後アプリケーションの機能が追加されたり、アップデートされたりしていく中で、常に新しい情報に意識を向け、柔軟に対応することも求められる。

- ・校外との積極的な情報連携

端末を活用することにより、学校や地域にとどまらず、他校の児童生徒や企業の方々ともオンラインで交流することが可能である。外部との連携を積極的に行うことで、学びの可能性を広げられ、どのような場でもたくましく、自分らしくいられる力が高まることを期待している。

2. GIGA第1期の総括

(実績)

令和2年度に町内児童生徒全員に端末を配備し、同時にネットワークの整備を行った。

また、Skymenu CloudおよびMicrosoftアカウント、Googleアカウントを教職員および児童生徒全員に付与し、1人1台端末を活用した授業が実施できる環境を整備した。

デジタルドリルeライブラリのアカウントも配備し、授業での演習利用や家庭学習等での利用に向けて取組を進めてきた。

授業支援だけでなく、校務支援ソフトとしてスズキ校務を活用、保護者連絡アプリであるスクリレの導入等、業務改善のためにシステムの導入を行った。

(成果)

- ・教職員のICT活用率が上昇し、授業改善につながった。
- ・業務のスリム化が進み、教職員の勤務状況について改善傾向が見られた。
- ・1人1台端末の導入により、調べ学習を始めとする学習手法の充実が図られた。
- ・教科書の二次元コードを活用することで授業内容が充実し、児童生徒の深い学びに繋げることができた。

(課題)

- ・教職員自身の得手不得手により活用状況に差が生まれ、特に苦手意識のある教職員のモチベーションが上がりにくい状況にある。
- ・効率的な活用の在り方についてのノウハウが不足しており、それぞれが手探りの中での活用になっていた。
- ・端末の性能上、動きが遅かったり、ネットワークにつながりにくかったりすることで授業の進行に支障をきたす場面が頻発し、教職員や児童生徒の前向きな活用を阻害していた。
- ・通信ネットワークについても、概ね良好であるが、敷地内で場所による強弱に差があり、授業の進行に支障をきたすケースがあった。
- ・低学年において、端末を持ち帰る際に重量的な負担が大きかった。
- ・アプリケーションが多岐にわたり、組織的なスキルアップの場面を持つことが難しかった。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用の方策について、以下に挙げる内容を基本とし、取組を推進する。具体的な目標値等については、4. に記載する。

- ・端末の挙動等の改善

端末の動きの改善のため児童生徒用端末をWindows OSからChromebook OSへと変更することに加えて、端末内のアプリケーション等を整理し、スムーズな活用を実現する。

- ・授業支援サービスの利用の一本化

Chromebookへの変更に伴い、Google Work Spaceを活用した授業支援サービスの利用に一本化する。また、Google Work SpaceおよびGoogle Classroomの活用方法や効果的な実

践事例等の研修を実施し、教職員の積極的な活用をめざす。

- ・デジタルドリルの見直し

CBTによる入学選抜、模試、調査への対応しているソフトの導入を検討する。また、町で実施している学力調査についても、結果を学習ドリルと連携させ、より効果的な自主学習が進められるように環境を整備していく。

- ・幅広い端末の活用の実現に向けて

授業だけでなく、幅広く学校教育活動全般での1人1台端末の活用を実現していく。学校行事や生徒会活動、部活動など、教職員のアイディアによって、ICTを活用した豊かな教育活動が展開できるよう、教育委員会としてもリーディングDX等、先進的な実践事例等を

継続的に発信し、取組のきっかけとしていく。

- ・ICT担当者会の開催

校務DX計画にも記載したとおり、能勢町教育委員会と所管校の管理職およびICT担当者によるICT担当者会を開き、端末の利活用に係る情報共有や検討を進め、児童生徒用端末の導入および校務用、指導用端末入れ替えに伴う、業務の在り方について検討を進める場とする。

特に、先進的に校務や授業で活用している自治体および学校の取組の情報等を積極的に集め、本担当者会において情報共有および検討していく。

4. 「教育DXに係る当面のKPI」のうち、1人1台端末の活用や子どもの学びに係る項目

項目	KPI	取組内容	現状値 (令和6年度)	目標値
1人1台端末の積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	町が主催する教員全員を対象としたICT研修の実施	40%	100% (令和10年度)
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている教員の率	端末を活用した効果的な授業実践や先進的な取組事例の共有および視察・研修の機会を確保する。また、全国学力・学習状況調査や校内アンケート等で実態把握に努め、状況を分析し、積極的な活用を促していく。学習ドリルや授業支援ソフト等のツールの整備も進める。	30%	80% (令和10年度)
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている教員の率		30%	80% (令和10年度)
	教職員と児童生徒がやり取りする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている教員の率		20%	80% (令和10年度)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている教員の率		20%	80% (令和10年度)
学びの保障	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態に応じて端末を活用した支援を実施している児童生徒の率	障害のある児童生徒の実態に応じて、支援学級担任および授業者が連携し、個に応じた効果的な活用を進める。	20%	100% (令和10年度)